

■特定課題セッションIV報告

「原発事故による自主避難者への社会的支援の必要性を考える」

コーディネーター：戸田典樹（神戸親和女子大学）

冒頭、本セッションの企画理由が、自主避難者に対する「親や夫（父親）を捨て避難した」、「風評被害を巻き起こす頭のおかしい放射脳」、「職場や地域を見捨て自分たちだけのことを考え逃げた卑怯者」という批判の早期解消に向けた社会的支援を提起することであると説明した。

この提起を受け、辻内 琢也氏（早稲田大学）から「2012年埼玉調査」、「2013年福島調査」、「2013年埼玉東京調査」、「2014年埼玉東京調査」という4つの調査結果をもとに、避難指示地域からの避難者、自主避難者ともにPTSDの可能性のある者が相当数存在していること、長期化する避難生活が生活費・仕事・近隣関係・賠償問題・住宅環境などに大きく影響を与えていることを統計学的に明らかにした。

次に、伊藤泰三氏（福山平成大学）から2013年実施した自主避難者実態調査から母子避難者の生活状況が特に深刻な状況にあると報告された。住み慣れた地域を離れて避難することで生じる様々な困難に加え、避難元の親族や友人、知人との関係に対する苦悩、興味本位の質問を受けることに対するストレス、今後の要望等の生活状況が特に深刻な状況にあることがと報告された。また、県内自主避難者が県外自主避難者とは異なる住宅確保や就学問題における困難についても報告した。

さらに、森田靖子氏（長野大学）は、避難先で孤立しがちな自主避難者に対して支援活動についての調査結果を報告した。A教会の取り組みが、第一に孤立しがちな自主避難者が集まる場を提供し、悩みや生きづらさを共有する避難者支援、第二に市民を巻き込み、原子力事故の学習会やシンポジウムを開催し、自主避難者問題を社会問題としての意味づけをしていると指摘する。そして、自主避難者には、①安心して話せ、共感できるピアな関係と②集える場所である。②困難を抱えたな親への支援（理解）と③子ども達の成長を促していける支援であり、④地域の支援（社会的な支援）が不可欠であると結んでいる。

最後に、大友信勝氏は、安全神話を生み出し、初期情報に多くの操作、隠蔽があり、国民の混乱と分断を生み出している点から原発事故が社会的事故、人災であることを指摘している。そして、自主避難者問題の背景や本質が被害補償の欠落にあることを指摘した。そして、自主避難者への経済的困難、子育て支援、二重生活に伴う物心両面に対する相談支援のあり方等を社会的に整備することの必要性を訴えている。

最後に、フロアから改めて「自主避難者問題の本質」を問う質問があり、支援や補償の限定化を見直すことが強調された。そして、広島やチェルノブイリの事例からもわかるように長期的視点にたった社会的支援や補償が必要であることが確認された。